

Sun*

Web Accessibility* Check

ウェブ上のコンテンツやサービスを、
あらゆるユーザーにとって親しみやすいものにする

Web Accessibility^{*} Check

1. サービス概要
2. プラン
3. ウェブアクセシビリティ診断の流れ
4. Appendix

ウェブアクセシビリティ診断

ウェブ上のコンテンツやサービスを、あらゆるユーザーにとって親しみやすいものにする

WCAG、JISの標準規格を元にWebサイト・Webアプリケーションを診断し、改善方針の提案を行います。

20ページ 660,000円(税別)~

こんな時におすすめ

- 法改正に伴い、義務化の対応を迫られている
- 社内に対応・改善方針の策定・対応施策を実施できる担当者がいない
- ウェブアクセシビリティのチェックなしにサイト構築している状態
- これを機にサイト全体のUI/UXも見直したい



なぜ今ウェブアクセシビリティなのか

法的規制による推進
2024年4月1日から
障害者差別解消法の改正

不特定多数の障害者等に対する合理的配慮が、努力義務から義務に変わります。アクセシビリティ対応は、努力義務の度合いが一段上がります。

新しいテクノロジーや
デバイスの普及による
アクセス方法の多様化

障害の有無にかかわらず、どのような状況からの人に対しても公正なユーザー体験を提供する必要ができました。

AI技術の進歩による
機械可読性・
2次利用のしやすさのニーズ

多様なケースに対応して人に読みやすく配慮することは、機械にとっての可読性も高められます。SEOへの対応もカバーできます。

ウェブアクセシビリティはビジネスに多くの利点をもたらします

広範囲な ターゲット

より幅広いターゲットにサービスを提供できるため、市場の拡大や新たな顧客層獲得の可能性を広げることができます。

SEOの向上

適切なマークアップはSEOに寄与し、検索エンジンランキングを向上させることが期待できます。

CSRの向上

企業の社会的責任に対する取り組みを示すものとなり、企業イメージの向上や競合優位性の確保にも繋がります。

開発・運用 コストの削減

早い段階で組み込むことで、修正やアップデートの際に発生するコストを削減でき、開発と保守の効率が向上します。

Sun*アクセシビリティ診断の特徴

事業価値向上に寄与する アクセシビリティ改善案



事業支援による社会のアップデートがコンセプトのSun*だからこそ、診断だけにとどまらず、事業コンセプトやブランドガイドライン、ターゲットに応じて、優先すべき体験価値を考慮しながら改善案を提案させていただきます。事業価値の向上を後押しします。

診断後のデザインから実装まで 改修フェーズも対応可能



アクセシビリティは診断することがゴールではありません。より多様な状況にある人にとっての体験を、ふさわしい形に改善することが重要です。Sun*では、改善すべきデザイン、コード実装までも対応することが可能です。

新規開発でアクセシビリティに 対応した設計が可能

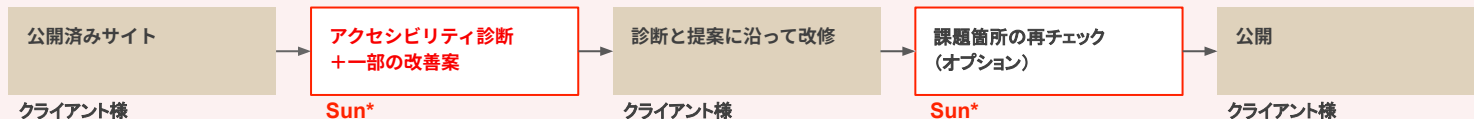


既存ページの診断だけでなく、新規開発のプロダクトについて、あらかじめアクセシビリティに対応した設計（デザイン・実装）を行うことも可能です。リリース前に診断を行い、アクセシビリティ準拠宣言ページも合わせてリリースすることで、プロダクト価値を高めます。

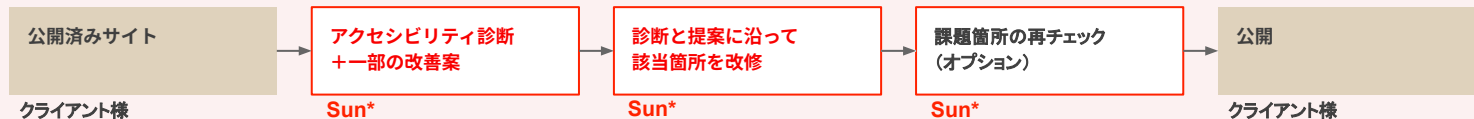
Sun*ウェブアクセシビリティ対応フェーズ

診断のみならず、その後の改修対応の他、デザイン・開発フェーズにアクセシビリティ対応を組み込むことが可能です。

診断



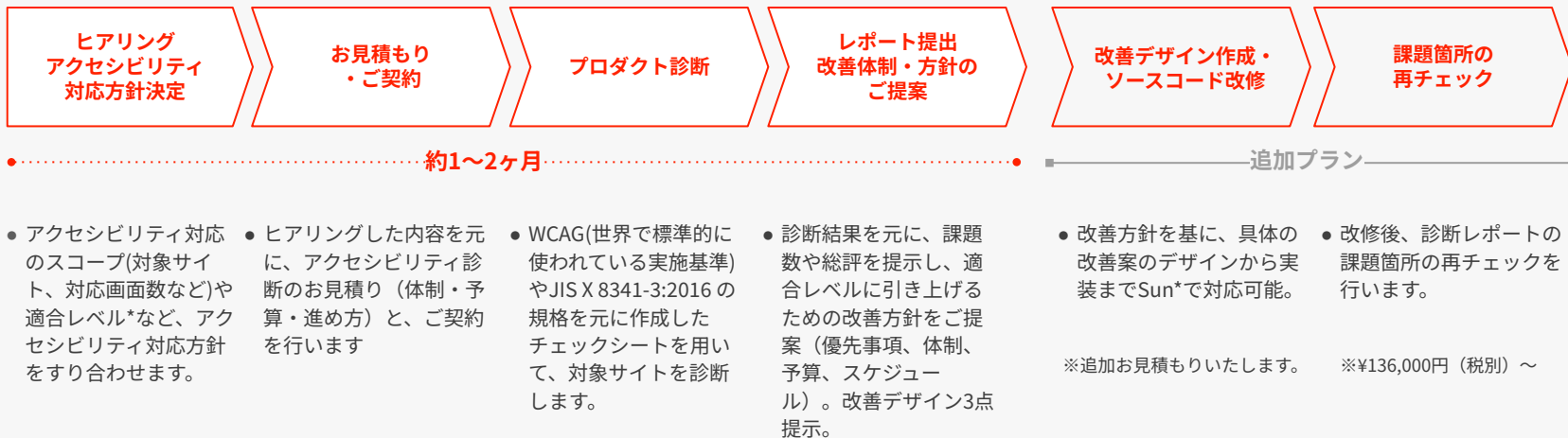
診断 + 改修



新規デザイン・開発でアクセシビリティ対応 + 診断（公開を前提）



ウェブアクセシビリティ診断のプロセス



アクセシビリティ対応方針の考え方 | どのレベルの対応を目指すか

アクセシビリティ公開方法の下記のパターンの中で、目指したい対応レベルがどのレベルかお聞かせください。
また、アクセシビリティ対応の参考や目安にしているサービスなどがありましたらお知らせください。

Flexible

企業全体の方針等で必要となっているが、
全面リニューアルなどのコストをかけずに、
その時点で可能な範囲で対応するケース

サービス例

- [日立ソリューションズ](#)
- [第一三共株式会社](#)
- [NECコーポレートサイト](#)

対応方法イメージ

- JISまたはWCAG2.0に従う
- 1回の診断結果のみを提示
- 診断に沿った改善対応

Moderate

一定の公共性を意識し、
アクセシビリティに配慮していることを
公に提示できる設計を行い、
きちんとした診断結果を公開するケース

サービス例

- [省庁サイト](#)
- [NTTグループ](#)

対応方法イメージ

- JISまたはWCAG2.0に従う
全体のデザイン設計段階から一定程度アクセシビリティを考慮
- 診断を外部に依頼
- 1,2年に1回20ページ程度を数年継続

Strict

アクセシビリティ方針を、
個別の対応内容にわたって細かく公開。
コンセプトやブランディングの観点も踏まえ、
徹底して取り組むケース

サービス例

- [freee](#)
- [Ameba](#)

対応方法イメージ

- WCAG2.1以上を考慮
WCAG等に従いながらも、自社にあったガイドライン基準の提示
- ブランディング方針やデザインシステムとの連動
- 組織内部に専属チーム

アクセシビリティ対応方針の考え方 | 何ページ診断すれば良いのか

JIS X 8341-3:2016の試験実施ガイドライン 2.2 ウェブページ一式単位での試験においては、サイトの全ページではなく、下記のように**ページを選択して試験を実施**する方法が提示されています。

次のいずれかの方法を用いて、
試験対象のページを選択して試験を実施 する。

- a) 全てのウェブページを選択する場合
- b) ランダムに選択する場合
- c) ウェブページ一式を代表するウェブページを選択する場合
- d) ウェブページ一式を代表するウェブページと、ランダムに 選択したウェブページとを併せて選択する場合

アクセシビリティ基盤委員会が公開
[JIS X 8341-3:2016の試験実施ガイドライン「JB.1 適合試験の要件」](#)より

b)c)の選択方法の場合、下記ページ数が目安とされています。
Sun*アクセシビリティ診断では、完全なランダムではなく
テンプレートも考慮して**1診断につき20ページ**を目安としています。

表1. 「b)ランダムに選択する場合」の試験対象ページ数の目安

選択するページ数	説明
10ページ以下	試行的な試験であり、合否を判定するには少ない
11～24ページ	合否判定に要する最低限のページ数
25～39ページ	合否判定に要する標準的なページ数
40ページ以上	合否判定に十分なページ数

	「b)ランダムに選択する場合」	「c) ウェブページ一式を代表するウェブページを選択する場合」
例 1 :	25ページ	15ページ
例 2 :	40ページ	10ページ

プラン概要

ベーシック

660,000円(税別)～

JISまたはWCAG2.0のAAレベルで、20ページ診断。
課題箇所の検出の他、デザイン改善案3点まで、
コード改善例10点までをご提示します。

診断内容	- JISまたはWCAG2.0 - A/AAレベルの診断
診断方法	- michecker及びその他補助的ツールでの診断 - チェックリストに基づき目視による診断 - 上記を統合したレポート生成
診断ページ数	- 未達成箇所の検出 →最大20ページ程度 - 緊急度が高いものについてソースコード改善例 →特に必要なページ3～10箇所以内 - 全体で2,3点の改善デザイン案
体制	デザイナー、フロントエンドエンジニア
期間	1～2ヶ月（ヒアリング、ご相談期間含む）
進め方	- 事前ヒアリング - アクセシビリティ対応方針のご相談 - ご契約 - 診断・レポート作成 - レポート提出 - 修正後のレビュー - 改善方針を提案（体制予算、スケジュール）
成果物	- 診断レポート一式 - レポート内容および改善方法の口頭説明

フルサポート

お見積もり

ページ数や対応レベル、診断後に必要な改善案のご提示数等、
ご要望に応じてお見積もりいたします。

診断内容	- WCAG2.1以上 - AAAレベルの診断
診断方法	NVDAなどスクリーンリーダーを使ったテスト
診断ページ数	- 未達成箇所の検出→20ページ以上 - 緊急度(高)箇所へのソースコード改善例、デザイン案の提示 →ご希望に応じたレベルで対応
オプション	- プロダクトコンセプト等に応じた改善方針のご相談 - アクセシビリティ方針ページの作成サポート
体制	内容、ボリュームに応じた工期
期間	内容、ボリュームに応じた工期
進め方	- 事前ヒアリング - アクセシビリティ対応方針のご相談 - ご契約 - 診断・レポート作成 - レポート提出 - 修正後のレビュー - プロダクトコンセプト等に応じた - 改善方針ご相談 - 改善方針を提案（体制、予算、スケジュール） - アクセシビリティ方針ページの構成作成
成果物	- 診断レポート一式 - レポート内容および改善方法の口頭説明 - アクセシビリティ方針ページの構成

追加プラン

診断後の改修

追加お見積もり

アクセシビリティ診断を基に、デザイン案ご提案から実装につきましては、別途お見積もりを作成し、体制・費用・スケジュール等詳細をご提示させていただきます。

追加プラン

課題箇所の再チェック

136,000円(税別)～

診断後に改修を進めていただいた場合、診断シートで記載した該当箇所が基準を満たしているか、再チェックを行います。

方針を
決める対象プロ
ダクトを診
断診断結果
改善方針

改善

再診断
結果公開

ウェブアクセシビリティの対応方針を決める

どのレベルの対応を目指すかを踏まえ、期間や予算等を加味して対象範囲と適合レベルを確認の上、方針をすり合わせて決定し、それに沿ったお見積もりを行います。

基本事項のヒアリング

どのレベルの対応を目指すか、その他、要件についてお聞かせください。

- ページ数
- 目指す対応基準と適合レベル
- ご予算
- スケジュール
- 修正対応はどのように行うか
- オプションのご希望

などの詳細をお伺いします。

アクセシビリティ方針のすり合わせ

ヒアリングでは、可能な範囲で、**プロダクトのコンセプトや方針、ターゲット等**をお聞かせください。

アクセシビリティの診断基準は一律のものですが、**プロダクトのコンセプトやターゲットユーザーの観点で、何を優先するか**、で診断対象ページ、診断後の改善提案の内容等が変わってきます。

例えば、ライブ配信を行い商品を販売するサービスの場合、動画、音声コンテンツ等に関する項目は、十分にアクセシビリティが考慮されていることが望ましいです。その場合、診断ページの選択や改善例を提示する箇所の選択において、コンセプトやターゲットをしっかりと把握できている方が、よりの確な診断が可能となります。

優先度がわからない、迷う場合はご相談ください。

診断対象ページの選択

方針に沿って、診断するページを選択していただきます。迷う場合はご相談ください。



対象プロダクトを診断

ご希望の基準に応じて、診断ツールおよびチェックリストに基づいた目視によるチェックを行います。

チェック方法

以下の方法でチェックを行います。

- mi checker (総務省推奨) のほか、複数の部分的なチェックツールによる自動チェック
- チェックリストに基づく目視チェック
- ツールによるチェックと目視の結果を照らし合わせて確認し、レポートにまとめる

ページごとのレポーティング

ページごとに、画面上の該当箇所(左)と対応する課題内容(右)を一覧で記載します。
全ての課題に対して、W3Cで提示されている改善方法のページリンクを記載します。
内容に応じて、特に必要性の高い項目について、1ページ1、2個程度、ソースコード例を記載します。

方針を定める

対象プロダクトを診断

診断結果改善方針

改善

再診断結果公開

項目	達成基準	レベル	デジタル作業解説	未達成ページ数	達成ページ数	1	2	3
3.1.1	ページの言語	A	ページの言語が、明示的に指定されている (HTML の lang 属性で言語が指定されている)。	1/11	2/11	○	○	×
2.4.2	ページタイトル	A	ウェブページのタイトルは、ページ毎に固有の「タイトル」を、のように、内容を具体的に把握できる記述になっている。	2/11	1/11	×	○	×
4.1.1	構文解析	A	HTML の文法に基づいたマークアップを行う。	1/11	1/11	△	○	×
2.4.6	複数の手段	AA	サイトマップなど、目的のページを見つけるための複数のナビゲーション手段がある。	0/11	0/11	調査中	未確認	未確認
3.2.3	一貫したナビゲーション	AA	ナビゲーション要素は、毎回同じ順序、表記で実装されている。	0/11	0/11	調査中	未確認	未確認
1.3.1	情報及び関係性	A	ページの情報が適切に HTML で構造化されている。色、形、配置に依存した情報が、読み上げた場合に失われるようなようになっていない。	1/11	0/11	未確認	未確認	未確認
1.3.2	意味のあるシーケンス	A	コンテンツが意味のある順序で並べられている。見出し階級構造と HTML の記号構造に一致している。	0/11	0/11	未確認	未確認	未確認
2.4.1	ブロックスキップ	A	ページ中の各セクションに、見出しとランドマークを付与してスキップできるようにする。	0/11	0/11	未確認	未確認	未確認
2.1.1	キーボード	A	キーボード操作だけで、ウェブページやウェブアプリケーションを操作することができる。	0/11	0/11	未確認	未確認	未確認
2.1.2	キーボードトラップなし	A	一度フォーカスした要素から逃がせないコンテンツを作らない。モーダルダイアログや懸念フレームで完全な操作が不可能な、適切な後継フォーカス要素を指定してあげる。	0/11	0/11	未確認	未確認	未確認
2.4.3	フォーカス順序	A	フォーカス順序が明示されている。	0/11	0/11	未確認	未確認	未確認
2.4.7	フォーカスの可能性	AA	フォーカス可能な要素は、フォーカスした瞬間になにか動作することがない。	0/11	0/11	未確認	未確認	未確認
3.2.1	フォーカス時	A	フォーカスした瞬間に、その要素が利用している情報が代替テキストとして記載されている。	0/11	0/11	未確認	未確認	未確認
1.1.1	非テキストコンテンツ	A	非テキストコンテンツは、適切な代替テキストとして記載されている。	0/11	0/11	未確認	未確認	未確認
1.4.5	文字画像	AA	装飾目的で、テキストを画像で示していない。	0/11	0/11	未確認	未確認	未確認
1.4.4	テキストのサイズ変更	AA	ブラウザの機能だけで文字を200%まで拡大できる。文字が拡大した状態から戻ることができる。	0/11	0/11	未確認	未確認	未確認
1.4.3	コントラスト(最低レベル)	AA	テキストは2.0倍のコントラスト以上の明るさでコントラストを確保する。背景とテキストのコントラストは、4.5:1以上である。	0/11	0/11	未確認	未確認	未確認
1.2.2	キャプション (記録済み)	A	収録音の音声コンテンツに字幕があり、収録音の音と内容が一致している。	0/11	0/11	未確認	未確認	未確認
1.2.3	音解説又はメディアに対する代替コンテンツ(記録済み)	A	収録音の音と内容が一致している。収録音の音と内容が一致している。	0/11	0/11	未確認	未確認	未確認

項目	達成基準	レベル	デジタル作業解説	未達成ページ数	達成ページ数	1	2	3
3.1.1	ページの言語	A	ページの言語が、明示的に指定されている (HTML の lang 属性で言語が指定されている)。	1/11	2/11	○	○	×
2.4.2	ページタイトル	A	ウェブページのタイトルは、ページ毎に固有の「タイトル」を、のように、内容を具体的に把握できる記述になっている。	2/11	1/11	×	○	×
4.1.1	構文解析	A	HTML の文法に基づいたマークアップを行う。	1/11	1/11	△	○	×
2.4.6	複数の手段	AA	サイトマップなど、目的のページを見つけるための複数のナビゲーション手段がある。	0/11	0/11	調査中	未確認	未確認
3.2.3	一貫したナビゲーション	AA	ナビゲーション要素は、毎回同じ順序、表記で実装されている。	0/11	0/11	調査中	未確認	未確認
1.3.1	情報及び関係性	A	ページの情報が適切に HTML で構造化されている。色、形、配置に依存した情報が、読み上げた場合に失われるようなようになっていない。	1/11	0/11	未確認	未確認	未確認
1.3.2	意味のあるシーケンス	A	コンテンツが意味のある順序で並べられている。見出し階級構造と HTML の記号構造に一致している。	0/11	0/11	未確認	未確認	未確認
2.4.1	ブロックスキップ	A	ページ中の各セクションに、見出しとランドマークを付与してスキップできるようにする。	0/11	0/11	未確認	未確認	未確認
2.1.1	キーボード	A	キーボード操作だけで、ウェブページやウェブアプリケーションを操作することができる。	0/11	0/11	未確認	未確認	未確認
2.1.2	キーボードトラップなし	A	一度フォーカスした要素から逃がせないコンテンツを作らない。モーダルダイアログや懸念フレームで完全な操作が不可能な、適切な後継フォーカス要素を指定してあげる。	0/11	0/11	未確認	未確認	未確認
2.4.3	フォーカス順序	A	フォーカス順序が明示されている。	0/11	0/11	未確認	未確認	未確認
2.4.7	フォーカスの可能性	AA	フォーカス可能な要素は、フォーカスした瞬間になにか動作することがない。	0/11	0/11	未確認	未確認	未確認
3.2.1	フォーカス時	A	フォーカスした瞬間に、その要素が利用している情報が代替テキストとして記載されている。	0/11	0/11	未確認	未確認	未確認
1.1.1	非テキストコンテンツ	A	非テキストコンテンツは、適切な代替テキストとして記載されている。	0/11	0/11	未確認	未確認	未確認
1.4.5	文字画像	AA	装飾目的で、テキストを画像で示していない。	0/11	0/11	未確認	未確認	未確認
1.4.4	テキストのサイズ変更	AA	ブラウザの機能だけで文字を200%まで拡大できる。文字が拡大した状態から戻ることができる。	0/11	0/11	未確認	未確認	未確認
1.4.3	コントラスト(最低レベル)	AA	テキストは2.0倍のコントラスト以上の明るさでコントラストを確保する。背景とテキストのコントラストは、4.5:1以上である。	0/11	0/11	未確認	未確認	未確認
1.2.2	キャプション (記録済み)	A	収録音の音声コンテンツに字幕があり、収録音の音と内容が一致している。	0/11	0/11	未確認	未確認	未確認
1.2.3	音解説又はメディアに対する代替コンテンツ(記録済み)	A	収録音の音と内容が一致している。収録音の音と内容が一致している。	0/11	0/11	未確認	未確認	未確認

方針を
決める

対象プロ
ダクトを診
断

診断結果
改善方針

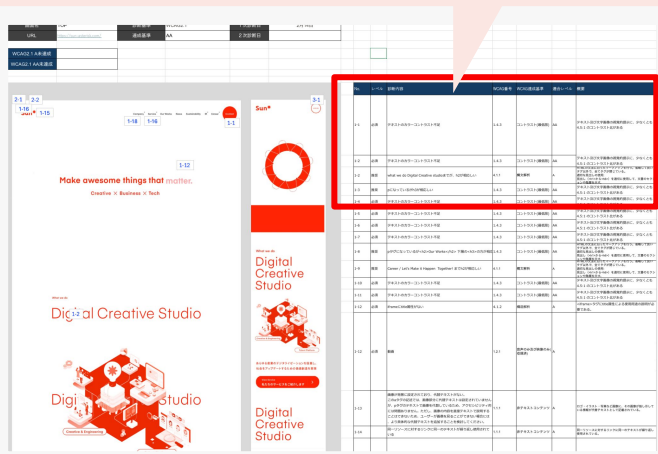
改善

再診断
結果公開

対象プロダクトを診断

各該当箇所に対して、下記の項目を提示します。

No.	対応	行数	診断内容	WCAG 番号	WCAG達成基準	レベル	達成要件	公式解説 リンク	改善方法	達成方法	達成方法(ヘルプ)
A-1	×対応必須		lang属性の定義がない	3.1.1	ページの言語	A	ページの言語が、明示的に指定されている (HTMLのlang属性で言語が指定されている)。	3.1.1ページの言語	<html>タグで、lang属性を定義してください。	SVR5	https://waic.jp/translation/
J-1	×対応必須		テキスト「2024/01/09」日付部分のカラーコントラスト不足	1.4.3	コントラスト(最低限)	AA	テキストは22ポイント(29px)以上の大きさでコントラスト比を4.5:1以上にする。※太字のテキストは 18 ポイント(24px)以上にする。	1.4.3コントラスト(最低限)	テキストのコントラスト比を4.5:1に調整してください。	G18	https://waic.jp/translations/WCAG-TECHS/G18.html



ページごとのレポート項目

1. 評価 (必須／推奨)
2. 行数 (コードの場合)
3. 診断内容
4. WCAG番号
5. WCAG達成基準
6. レベル (A/AA)
7. 達成要件 (デジタル庁チェックリストから)
8. 公式解説リンク
9. 改善方法 (簡易な改善方法の提示)
10. 達成方法 (W3C改善ページへのリンク)

方針を
決める対象プロ
ダクトを診
断診断結果
改善方針

改善

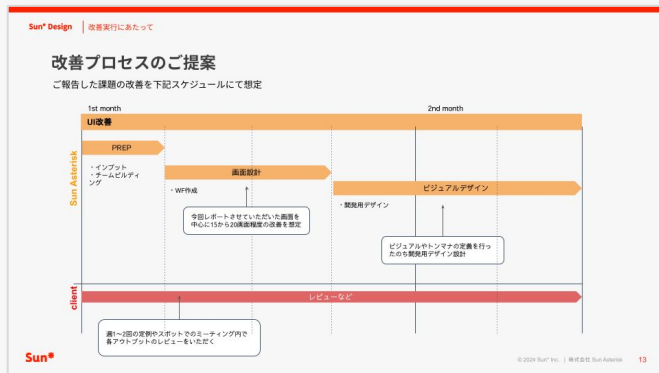
再診断
結果公開

診断結果から改善方針・体制をご提案

診断結果をもとに適合レベルに引き上げるための改善方針（体制、予算、スケジュール）をご提案します。

改善方針・体制のご提案

サイトやプロダクトにおける優先度に沿った改善方針のほか、必要な改善デザインの作成、改善すべきデザインの内容やボリュームに応じて、体制や進め方、予算をご提案します。



Web Accessibility*Check | 改善実行にあたって

お見積り

Position	Price	2024/01		2024/02		Subtotal Effort	Subtotal Standard Charging
		Effort	Standard Charging	Effort	Standard Charging		
Lead Designer (JP Office) L2	¥1,760,000	0.20	¥32,000	0.10	¥176,000	0.30	¥528,000
Designer (JP Office) M2	¥1,360,000	0.50	¥680,000	0.25	¥340,000	0.75	¥1,020,000
Charging Total			¥1,135,200		¥567,600		¥1,702,800
↳ Standard Charging		0.70	¥1,032,000	0.35	¥516,000	1.05	¥1,548,000
↳ Administration Fee							
L (JP)		0.70	¥103,200	0.35	¥51,600		¥154,800
L (VN)		0.00	¥0	0.00	¥0		¥0
L (PH)		0.00	¥0	0.00	¥0		¥0
Subtotal (小計)			¥1,135,200		¥567,600		¥1,702,800
Tax			¥113,520		¥56,760		¥170,280
Total Price (合計)	10%		¥1,248,720		¥624,360		¥1,873,080

シニアUIデザイナー 御社とのコミュニケーションやプロジェクト管理、全体監修およびデザイン作業

デザイナー 画面デザイン作業

1.5ヶ月 ¥1,702,800

Sun*

© 2024 Sun* Inc. | 株式会社 Sun Asterisk 28

方針を
決める対象プロ
ダクトを診
断診断結果
改善方針

改善

再診断
結果公開

改善デザインの作成とソースコード改修

改善内容を基に、具体的な改善デザイン作成と実装をSun*で対応可能です。

改善プロセス

診断結果と改善案を踏まえて、プロダクト全体において、実際の改善作業をご支援します。

詳細な改善方針や改善箇所の優先順位等をすり合わせた上、デザインデータ、ソースコードをご共有いただき、それをもとに必要箇所の改善デザイン、改善ソースコードを制作・実装いたします。

※デザインデータ等、形式や置かれている環境に応じて、改善デザインの提供方法をご相談の上、決定します。



方針を
決める対象プロ
ダクトを診
断診断結果
改善方針

改善

再診断
結果公開

再診断と方針・診断結果の公開

改善対応後、当初定めた適応レベルまで達成できているかを確認するため、再診断を行います。
一定の項目を達成した段階で、アクセシビリティ方針及び診断結果をサイト上で公開する際のサポートも行います。

再診断

未達成項目が改善されているか、ページごとの診断レポートの一覧に沿って確認を行います。
(オプション：136,000円(税別)～)

アクセシビリティ方針・診断結果の公開

アクセシビリティに対応していることを
積極的に公開するために、
アクセシビリティ方針と診断結果を公開する
ページ作成をサポートいたします。



検分結果	達成基準	適合レベル	適用	結果	注記
1.1.1	非テキストコンテンツ	A	○	×	
1.2.1	音声及び映像の代替 (収録済み)	A	-	○	音声、映像コンテンツなし
1.2.2	キャプション (収録済み)	A	-	○	音声、映像コンテンツなし
1.2.3	音声解説又はメディアに対する代替コンテンツ (収録済み)	A	-	○	音声、映像コンテンツなし
1.2.4	キャプション (ライブ)	AA	-	○	音声、映像コンテンツなし
1.2.5	音声解説 (収録済み)	AA	-	○	音声、映像コンテンツなし
1.3.1	情報及び関係性	A	○	×	
1.3.2	意味のある順序	A	○	○	

アクセシビリティ方針の公開例

包括的なユーザビリティの向上でさらにプロダクト価値の向上を

アクセシビリティにとどまらず、包括的にユーザビリティを見直し、改善を行うことでプロダクト価値をさらに向上させることが可能です。

UI*UX Review

デジタルプロダクトのデザインを数多く手がけてきた専門家が、情報設計(IA)・UI/UX・ビジュアルなどの観点を中心に、プロダクトの課題抽出から改善案の提案までを一気通貫でおこなうサービスです。改善点を発見し、プロダクトの価値向上につなげます。

[資料ダウンロードはこちら](#)



Appendix

なぜ今“ウェブアクセシビリティ”なのか

背景

新しいテクノロジーやデバイスの普及による、アクセス方法の多様化



重要

障害の有無にかかわらず誰に対しても
公正なユーザー体験を提供する必要がでてきた。

法的規制による推進

2024年4月1日～

障害者差別解消法の改正内容が適用され、民間事業者の「合理的配慮」が義務づけられる。

※合理的配慮は、不特定多数の障害者等の利用を想定して事前に行われる建築物のバリアフリー化、介助者等の人的支援、情報アクセシビリティの向上等の「環境の整備」を基礎として、個々の障害者に対して、その状況に応じて個別に実施される措置である。
(引用: デジタル庁)



海外の流れ

- アメリカ合衆国障害者差別法（ADA）
- 欧州アクセシビリティ法（EAA）



日本でもこれらに従うことは
法的な要件を満たすだけでなく、
企業や団体の信頼性も向上。

第3章 米国における障害差別禁止と合理的配慮をめぐる動向

1990年の障害者法（Americans with Disabilities Act of 1990、以下「ADA」という。）は、世界の30か国以上で障害に関する法律のモデルとなっている（Congressional Human Rights Caucus, 2006）。

米国の障害者人口は総人口の少なくとも15%であるが、戦争、AIDS、病気、怪我によりきびしい状況にある人達を含めると50%にもなると予想される（Congressional Human Rights Caucus, 2006）。そこで本章では、1973年のリハビリテーション法（Rehabilitation Act of 1973、以下「リハビリテーション法」という。）、ADA（びり法改正法2007等の障害差別禁止法と合理的配慮をめぐる動向及び権限についてまとめている。

1 米国における障害差別禁止法の動向

1.1 米国の主要な障害差別禁止法

米国における障害差別禁止に関連の1960年以降の主要な法律をまとめたものが、表3-1である。

表3-1 米国における障害差別禁止関連の法律

年	法律名
1966	公平労働基準1966年改正法（Fair Labor Standards Amendments of 1966）
1968	建築物障害者法（Architectural Barriers Act of 1968）
1973	リハビリテーション法（Rehabilitation Act of 1973）
1973	発達障害者差別禁止法（Developmental Disabilities Antidiscrimination and Bill of Rights Act of 1973）
1975	全米障害者教育法（Education for All Handicapped Children Act of 1975）
1980	施設入居者市民権法（Civil Rights of Institutionalized Persons Act of 1980）
1984	高齢者・障害者投票アクセシビリティ法（Voting Accessibility for the Elderly and Handicapped Act of 1984）
1984	発達障害者法（Developmental Disabilities Act of 1984）
1985	合併予算調整法（Consolidated Omnibus Budget Reconciliation Act of 1985）
1986	障害者教育法（Education of the Hand Act of 1986）
1986	新交通機関アクセシビリティ法（New Carrier Access Act of 1986）
1989	障害のあるアメリカ人のための雇用機会法（Employment Opportunities for Disabled Americans Act of 1989）
1990	リハビリテーション法1990年改正法（Rehabilitation Act Amendments of 1990）

～ 87 ～

※障害者職業総合センター NIVRの資料より抜粋



ウェブアクセシビリティはハードルが高い印象だが取り組む価値がある！



段階的に進め徐々に改善することで、
ユーザー体験向上やビジネス上でのメリットにつながる。

メリット

ウェブアクセシビリティはビジネス上でも多くの利点をもたらす

ユーザーに
選ばれるサービスに

サービス価値がユーザーに届き、他サービスよりも選んでもらいやすくなる

広範囲なターゲット

より幅広いターゲットにサービスを提供できることで、市場の拡大や新たな顧客層獲得の可能性を広げる。

SEOの向上

バリアフリーなコンテンツはSEOに寄与し、検索エンジンランキングを向上させることが期待できる。

CSRの向上

企業の社会的責任に対する取り組みを示すものとなり、イメージ向上につながると思われる。

コスト削減

早い段階で組み込むことで、修正やアップデートの際に発生するコストを削減でき、開発と保守の効率が向上。

Appendix

ウェブアクセシビリティとは

ウェブ上のコンテンツやサービスが、
あらゆるユーザーにとって利用可能な状態。

アクセシビリティ		アクセス		アビリティ
Accessibility	=	Access	+	Ability
		$\left[\begin{array}{c} \text{近づく・} \\ \text{アクセスする} \end{array} \right]$		$\left[\begin{array}{c} \text{能力・} \\ \text{～できること} \end{array} \right]$

(引用: デジタル庁)

ウェブアクセシビリティが確保できている状態とは



目が見えなくても情報が伝わる・操作できること



キーボードだけで操作できること



一部の色が区別できなくても情報が欠けないこと



音声コンテンツや動画コンテンツでは、音声聞こえなくても何を話しているかわかること

(参考: デジタル庁)

ウェブはアクセシビリティを担保しやすいメディア



理由

標準化された規格、柔軟なデザイン、効果的なテクノロジーで
異なるニーズに対応できる。



Appendix

ウェブアクセシビリティの ガイドラインと規格



**最新のガイドラインでは、
全く同一内容の一致規格として改定された。**

WCAG

(Web Content Accessibility Guidelines)



4つの原則

知覚可能

操作可能

理解可能

堅牢
(けんろう)

JIS X 8341-3

8341＝やさしい

高齢者・障害者等配慮設計指針－情報通信における機器
ソフトウェア及びサービス－第3部：ウェブコンテンツ

主な要件

情報の理解

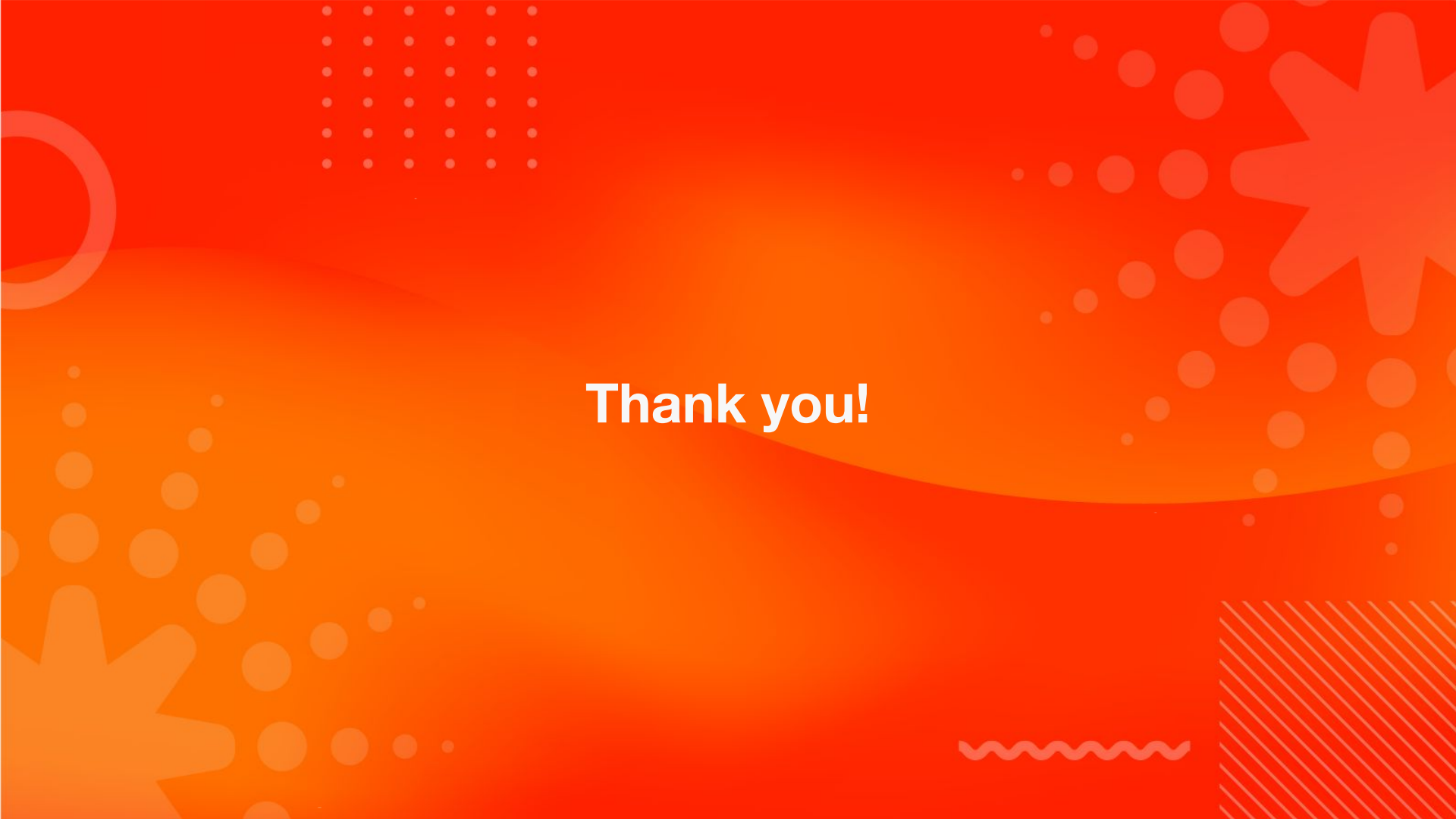
一貫性

ユーザビリティ

対比

拡大機能

音声読み上げ

The background is a vibrant orange gradient. It features several abstract geometric elements: a grid of small dots in the top left, a large star-like shape in the top right, a wavy line in the bottom right, and a pattern of diagonal lines in the bottom right corner. There are also various circles and a large gear-like shape in the bottom left.

Thank you!